

令和5年度モデルプログラム（案）

1 概要

名称	(仮) 今は始めるスキル・リノベーション～マネジメント入門編～
モデルプログラムの目的	不確実性の時代において、新たな社会構造に対応した事業変革を促進するため、本県経済を支える企業の中堅リーダー層を対象に、次代を担うマネジメント人材を育成する。
育成する人材像	以下の能力を有するマネジメント人材 <ul style="list-style-type: none"> ・「客観的」かつ「複眼的」に物事を捉える視点と深い洞察力に基づく問題解決力 ・問題を解決するためにチームを率いる統率力
モデルプログラムの内容	「人的資源管理」、「経営戦略」、「経済学」の3分野における入門
回数・期間	全16回、約3か月
実施形態	オンライン（講義）と対面（ディスカッション等）
期待される効果	○学ぶことによって従来とは物事の見え方が変わることにより、自ら主体的に学び続けていく「きっかけ」をつくる。 ○対面での学修を通じて新たな人脈を形成し、プログラム終了後もお互い相談し合える関係性・ネットワークを構築する。

2 講義科目等

(1) 講義科目・講師

科目	テーマ	講師
人的資源管理入門	「人が組織で働くのはなぜか」を多角的に考える。	静岡産業大学副学長/経営学部教授 田畑和彦
経営戦略入門	組織とは何かを理解するとともに、「組織」と組織を取り巻く「経営環境」との関わりについて考える。	静岡大学人文社会科学部経済学科准教授 大脇史恵
経済学入門	現実経済を切り口に、一国経済の動きや市場の仕組みを理解する。	静岡産業大学経営学部教授 牧野好洋

(2) 特別講演

講義科目ごとに、外部講師による特別講演を実施

科目	テーマ
人的資源管理入門	ワーク・ライフ・バランス
経営戦略入門	県内企業経営者による講演（2名）
経済学入門	静岡県経済の課題等

(3) コーディネーター

静岡県立大学経営情報学部准教授 上原克仁

3 受講料

3万円

4 受講者数

30名


5 実施主体

静岡県（公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの運営委託を想定）

6 実施時期・形態

実施時期	受講生募集：令和5年2月中旬～5月中旬
	カリキュラム期間：令和5年6月～8月
方法	対面（土日）とオンライン（平日）
場所（対面）	静岡市内
時間帯	平日（夜間）19時00分～20時30分 土日（昼間）13時30分～15時00分 15時15分～16時45分の2回
時間数・期間	1回当たり90分、全16回24時間、約3か月

7 受講証明

目的	学修成果を可視化し、質の保証を行うことにより、プログラムの付加価値を高め、企業及び従業員の受講環境の整備につなげる。
方法	オープンバッジ※の発行 ※米国の機関が認定する国際標準規格であり、日本では「一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク」が発行。受講者の学修歴のデジタル証明書。受講者はバッジ画像をデジタル履歴書や、メール署名に貼ると、面接官や取引先等へのアピールに活用できる。国内では企業や団体等、140団体が導入。 

【参考】

1 プログラムの構成イメージ

回	日 時		実施方法	内 容	
1		土 13:30～15:00	対面	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス（カリキュラムのねらい、自己紹介等） ・講義：ファシリテーター入門 	
2	1 か 月 目	水 19:00～20:30	オンライン	人的資源 管理入門	モチベーション
3					リーダーシップ、コミットメント
4					インクルージョン
5		土 13:30～15:00	対面		グループワーク
6	15:15～16:45	【特別講演】ワーク・ライフ・バランス			
7	2 か 月 目	水 19:00～20:30	オンライン	経営戦略 入門	経営戦略はなぜ必要なのか
8					経営戦略の概念や定義
9					経営戦略のレベル、経営戦略の構成要素、戦略策定プロセス
10		土 13:30～15:00	対面		【特別講演】県内企業経営者による講演（2名） （質疑応答・意見交換含む）
11		15:15～16:45			
12	3 か 月 目	水 19:00～20:30	オンライン	経済学 入門	経済成長
13					景気循環
14					物価変動
15		土 13:30～15:00	対面		【特別講演】静岡県経済の課題等
16		15:15～16:45			

※ 開催日時、講義の詳細は今後、講師と調整

2 モデルプログラム（案）検討過程

（1）作業部会員 （任期：令和4年6月17日～令和5年3月31日）

産 業 界	梶川 久美子	サツマ電機株式会社代表取締役
	杉本 昌史	鈴与商事株式会社人事部人事課長
	松永 達哉	有限会社松永和廣設計事務所取締役
大 学	上原 克仁（部会長）	静岡県立大学経営情報学部准教授
	大脇 史恵	静岡大学人文社会科学部経済学科准教授
	牧野 好洋	静岡産業大学経営学部教授

（2）作業部会実施状況

開催時期	内 容
第1回 （7月8日）	モデルプログラムの対象、内容、実施方法、講師
第2回 （8月18日）	カリキュラムの方向性
第3回 （9月7日）	カリキュラムのテーマ、講義の分野、講演のテーマ
第4回 （9月30日）	カリキュラムのコンセプト、ねらい、講義科目
第5回 （10月28日）	カリキュラム、講師、受講証明、受講料、プレ講座

静岡県リカレント教育推進事業 事業計画

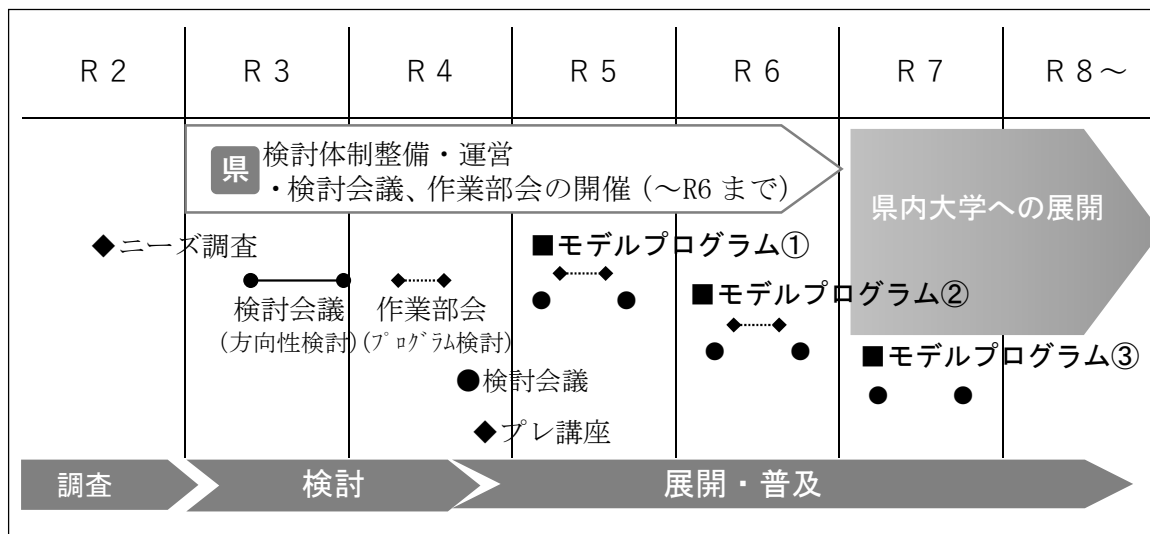
1 令和4年度事業計画

モデルプログラムの検討	○検討会議（12月23日） ・議事：令和5年度モデルプログラム ・報告：プレ講座の開催 ・意見交換：リカレント教育推進に向けた環境整備、令和6年度モデルプログラム
	○作業部会（7～10月、全5回） ・カリキュラム（コンセプト、講義科目、講師） ・受講環境（実施形態、受講証明、受講料） ・プレ講座（内容、講師）
	○令和5年度モデルプログラムの提供準備 ・シラバス作成 ・受講生募集（令和5年2月中旬～）
機運醸成	○プレ講座（3月4日） ・基調講演 ・パネルディスカッション

2 令和5年度モデルプログラム実施スケジュール

受講生募集	令和5年2月中旬～5月中旬
受講生決定	令和5年5月下旬
カリキュラム期間	令和5年6月～8月

3 全体計画



リカレント教育プレ講座の開催

1 要 旨

令和5年度からのリカレント教育モデルプログラム提供に向け、企業及び県民への学び直しへの機運醸成を図るため、プレ講座を開催する。

2 プレ講座の概要

日 時	令和5年3月4日（土）午後1時30分から4時00分まで
場 所	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」910会議室
開催方式	対面及びオンライン（Zoom ウェビナー）
定 員	対面100人、オンライン500人
対 象	・社員の学び直しに興味を持つ県内企業担当者 ・学び直しに関心のある社会人 等
参加費	無料
内 容	1 開会挨拶 静岡県副知事 出野 勉 2 基調講演 <60分> 講師：小野澤宏時氏（元ラグビー日本代表、静岡県教育委員） 内容：○ラグビー選手時代に培ったリーダーシップや チームマネジメント ○ラグビー選手時代に大学院に進学した経験 （自身の学び直しについて） 3 パネルディスカッション <60分> パネリスト：小野澤宏時氏 牧野 好洋氏（静岡産業大学経営学部教授） 大脇 史恵氏（静岡大学人文社会科学部准教授） コーディネーター：上原 克仁氏（静岡県立大学経営情報学部准教授） 内容：モデルプログラムの概要やねらい等
申込期間	令和4年12月23日（金）から令和5年2月27日（月）まで

令和 2 年度静岡県リカレント教育ニーズ調査 企業インタビュー

1 調査概要

内 容	県内企業 10 社に対するヒアリング調査（対面又はオンライン）
時 期	令和 3 年 2 月 8 日～3 月 3 日

2 企業インタビュー及び対応状況

質問 1：静岡県のリカレント教育プログラムを受講させる上での課題 企業回答	R5 モデルプログラム への反映状況
<受講料> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 日 10 万円ぐらいの研修もあり、内容が充実していれば、高額でも全額会社負担可 ・ 会社からの指示の場合、受講料と並行して給与も出すが、場所が遠い場合の家賃補助や交通費までは出すのは難しい ・ 値段に見合う内容であれば、1 人 1 か月 20 万～30 万ぐらいまで負担できる 	3 万円
<受講手法> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践的な技術習得のためには、対面授業を行う必要があり、遠方での開催は時間帯によっては受講不可 ・ 受講方法は実践的な内容は対面、座学的な内容ならオンラインでよい ・ 移動時間、交通費のことを考えるとオンラインの方がよい ・ 受講形式はオンラインが望ましいが、グループワークが多いものは対面の方が身になる 	平日はオンライン、土日は対面での開催
<時期・期間> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座開催の時期と閑散期のタイミングが合うかが重要 ・ 期間は内容が充実しているのならば長期間でも構わない ・ 月 1、2 回なら長期間でも受講できる ・ 営業店の従業員は人手不足の影響で業務時間外の受講になるため、講座開催の曜日は重要 	令和 5 年 6 月～8 月（約 3 か月）
<時間帯> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 週間に 2 時間ぐらいなら業務時間内に受講可 ・ 週 2 日までなら丸 1 日受講できる ・ 専門的な内容であれば長期間、丸 1 日 1 年間受講でもよい ・ 現体制でも週 1 回ぐらいなら受講させられる ・ 1 日講習なら月 1 回まで ・ 業務時間外の受講は、残業代の問題などが出てくるので会社からの指示での受講は難しい 	【平日（夜間）】 19 時 00 分～20 時 30 分 【土日（昼間）】 13 時 30 分～15 時 00 分 15 時 15 分～16 時 45 分

<p><対 象></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント関連の内容は、中堅～管理職層で受講希望 ・専門知識は30代に、幹部育成内容は40代に受講させたい ・管理職はマネジメント系、中堅層は管理職に向けての意識づけ、モチベーションの保ち方、若手への見せ方等の内容 ・受講させたい層よりも、本人のやる気が重要なので、意欲のある人に受講させたい 	企業の中堅リーダー層
<p><賃金保障></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務として強制的に受講させる場合の賃金の問題 ・受講中の賃金保障に雇用調整助成金等があればありがたい 	
<p><業務調整></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育受講で抜けた人の補填（代替職員の確保） ・タイミング、受講期間、業務にどの程度支障が出るのかが課題 	
<p><退職リスク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全額会社負担で資格を取得させた後、数年で退職してしまう事例があり、対策を打たなければならない 	

質問2：リカレント教育に取り組むために県に期待すること	R5モデルプログラムへの反映状況
企業回答	
<p><プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学を利用したマネジメント系や新しい技術のプログラム ・テーマによっては、座学だけでなくワークショップなど実践的なプログラムもあった方がよい ・県工業技術研究所等での機械の使用法、分析法等 ・実践的に仕事に役立つカリキュラムがよい ・大学と民間企業で連携して民間企業の業務内容に触れるようなコース ・公的資格の取得率が上がるような内容 ・幹部候補に受講させるような経営などの学問的な内容のプログラム ・国内や海外で通用するレベルの認定書が出る、質の高いプログラム 	「人的資源管理」、「経営戦略」、「経済学」の3分野における入門
<p><受講証明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了証については、受講証明として必要、発行元は問わない 	オープンバッジの発行
<p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講を検討できるような情報の発信（啓蒙活動） 	県HPによる情報発信
<p><受講料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受けやすい受講料の設定 	3万円
<p><支 援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金額が高いものは県の助成金（補助金）があるとありがたい ・受講による人手不足解消のサポート 	
<p><差別化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間の講座や資格学校との優位性、差別化 	